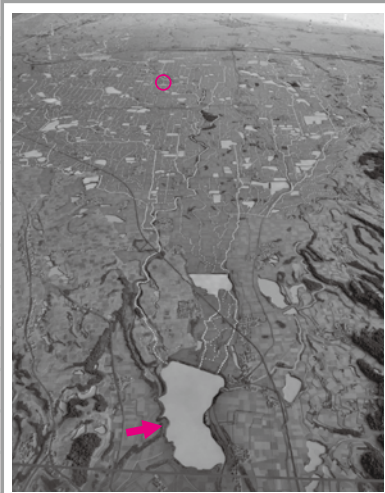


下高野街道沿いの新池跡

西田 孝司(松原市文化財保護審議会)

vol.245



▲模型「狭山池のかんがい範囲」
(狭山池博物館撮影許可済)



▲はーとビュー東端の「下高野街道」案内板



▲北側の石碑側から新池跡に建つはーとビューをのぞむ



▲「故酒井留三郎氏之碑」(右)と酒井氏寄贈碑(左) 南新町2丁目

更池村の水田を潤したため池 地域に尽くした酒井氏の顕彰碑

南新町二丁目に人権交流センター(はーとビュー)が建っています。子どもから元希者まで、幅広い世代の人々が交流をはかったり、学びの場として活用しています。

同地は江戸時代、河内国丹北郡更池村で、新池が水をたたえていました。宝永二年(一七〇五)五月に記された『河州丹北郡更池村明細帳』に「字新池 溜池堤 平均東西六拾七間 南北四拾五間」是ハ前々々之池、年数知れ不申候、堤破損「此池二樋四カ所御座候」とあります。

新大和川が柏原から松原を経て、堺方面に付け替えられた宝永元年(一七〇四)の翌年の記述です。新池はそれ以前から存在し、親池とされる狭山池(大阪狭山市)が慶長十三年(一六〇八)に大改修された結果、これまで以上に池下の現堺市、松原市、羽曳野市、八尾市、大阪市にあたる八十ヶ村が狭山池から水の恩恵をうけるかんがい範囲となりました。新池も慶長年間ころにはつくられていたと思われます。

上の写真は、府立狭山池博物館(大阪狭山市)に常設されている「模型狭山池のかんがい範囲」のジオラマです。江戸時代以降のかんがい範囲を十七世紀、十九世紀、二十世紀の三時期に分け、縮尺五〇〇〇分の一で表現

しています。南に位置する狭山池(矢印)から北側の新大和川方面に向かう東側の東除川、西側の西除川の流路を示し、大きささまざまなため池が点在しているさまが読みとれます。北方中央に新池(丸印)も見られます。同時に、模型と併設して、十七世紀以降、新池が出来て収穫量が増加した更池村の耕作の様子を役者さんが演じるビデオも放映しています。同館に足を運んで、見学されることをおすすめします。

新池は一、三千haの池敷面積を持っていましたが、昭和四十五年(一九七〇)にグラウンドとして造成され、昭和四十七年になって市青少年会館が建てられたのです。今のはーとビューの前身施設です。

ところで、はーとビューの北東側はグラウンドになっていますが、その北側、もとの堤の場所に五基ほどの石碑が近くから移され建てられています。左側は昭和七年(一九三二)に隣接する河合などで行われた陸軍特別大演習に際し、警備にあたった更池村消防組を記念した顕彰碑です(「歴史ウォーク」219)。

更池の人々が協働して地域づくりを進めていった活動の証ですが、右端の石碑も地域の人々にとって忘れられない歴史を物語っています。表面に「故酒井留三郎氏之碑」とあります。碑文を読むと、昭和十九年(一九四四)、区長であった酒井氏は新池の西側にあった区営の共同浴場の燃料が戦時中不足したので、

区民の保健衛生に深く憂慮されました。そこで、東奔西走し、当時の南河内郡長野町千代田(現河内長野市)にあった大阪陸軍幼年学校から払い下げられた廢材を受け取ることにこぎつけたのです。しかし、受け取り日の五月十九日午前七時すぎ、車で南海高野線の狭山駅北一番踏切を横断中、電單車事故に遭い四十歳で亡くなったのです。

昭和二十三年(一九四八)五月十九日、有志の方々は「故酒井氏ノ殉職ニ追悼シ之ヲ建設ス」として、酒井氏の遺徳をしのび、同碑を建てたのです。

また、その横に建つ石碑は、酒井氏が昭和十三年(一九三八)十二月に更池村青年団に対し、父・留太郎の三周忌にあたって「楽器」一揃いを寄贈したことを受けて、同青年団が同氏に感謝して建立したものです。更池の青年が戦時中、戦地に出征する際、地域の人々が布忍駅までこれらの楽器を演奏して送り出したということです。

なお、グラウンドの東端には、古道の下高野街道が走っています。天王寺(大阪市)から高野山(和歌山県)方面に向かう道として、江戸時代以降よく利用されました。江戸時代半ば以後の更池村絵図にも池の東側に「高野道」と書かれています。フェンス側に市の許可を得て「下高野街道」の案内板を建てさせていただきました。新池跡・石碑や歴史街道におもいをはせていただければと思います。